

多様で個性ある地域づくりに向けて

特色ある地域づくり	滋賀県長浜市(黒壁ガラススクエアー) 旧市街地のシンボリック的存在であった教会の建物が売却される話をきっかけに、住民のまちづくり意識が高揚。古い街並みと調和しつつ、新しさ、将来性を感じさせる産業(ガラス工芸)が注目され、風格と活力のあるまちづくりが進められている。こうした取組の結果、来訪者が大幅に増加。
	大分県湯布院町 観光を軸としたまちづくりが進められ、自然と人間の調和という考え方に立って、開発事業を調整し、町の成長を管理する「潤いのある町づくり条例」が定められている。「湯布院映画祭」や「ゆふいん音楽祭」が毎年開催され、年間の観光客は300万人を大きく上回っており、再び訪れる観光客も多数。
民間の多様な主体の参加による地域づくり	兵庫県神戸市 阪神・淡路大震災直後、それまでに神戸のまちづくりに関わりのあった都市計画家、建築家、大学研究者などが「阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク」を形成。同ネットワークは、専門家としての立場から市民まちづくり活動への支援をめざしており、特定の住民組織は参加していないものの、地域の住民組織を巻き込んだ地元まちづくり活動のネットワークを組織している。
	山形県庄内地方 庄内14市町村にまたがるNPO「庄内国際交流協会」が毎年開催される「庄内国際青年祭」に大きな貢献。このイベントでは、日本に來ている外国人留学生を庄内に招待し、地元の若者との交流、ホームステイを通じ、草の根の国際交流を実践。地域の文化、伝統の価値が外国人の目を通じて再認識されている。同NPOは、「庄内国際青年祭」以外にも世界と庄内との交流促進に向け幅広い活動を展開。
地域間の連携による地域づくり	高知県四万十川流域 国、県、流域市町村や住民団体、企業による清流保全を通じた地域づくりが活発。国、県、流域市町村による「四万十川サミット」の開催、流域8市町村による「四万十川総合保全機構」の発足、3町村でつくる第三セクター「四万十ドラマ」による会員制ネットワークづくりや「自然の学校」の実施。流域住民でつくる「四万十川流域住民ネットワーク」を通じ上流・中流・下流の住民交流が進展。
	鳥取県、島根県、岡山県、広島県の県境地域 たたら製鉄、和牛、製炭という共通産業基盤の上でかつて交流があったものの、これらの産業の衰退とともに圏域の交流が途絶えがちになった地域において、1993年から圏域16市町村の首長等が「中国山地県境市町村連絡協議会(県境サミット)」を構成し、交流が進展。過疎化・高齢化等の諸問題の解決を図り、「森林文化都市圏」の創出を狙った取組を進めている。
	兵庫県加古川地域 加古川市、稲美町、播磨町の1市2町と加古川市、加古川郡の医師会からなる地域医療システム協議会が母体となり、基幹となる4病院の間で地域医療情報システムを展開。「検査・健診オンラインシステム」により、個人の健康に関するデータの共同利用などが行われ、検査機械や入院施設の都合で他の医療機関へ行く必要がある場合に、医療機関同士がスムーズに協力できるなど、医療機関間での連携が進展。

(出典) NPOとまちづくり研究会「NPOとまちづくり」(1997年)、本間義人「まちづくりの思想」(1994年)、「湯布院町町勢要覧1998」、地域情報会議「地域の価値を創る」(1998年)、(財)高知県政策総合研究所「四万十化」に向けた地域づくり(1998年)、国土庁「多自然居住地域創造推進検討委員会報告書」(1999年)、国土庁「交通基盤の整備と国土の軸のあり方に関する調査報告書」(1995年)をもとに国土交通省国土計画局作成。